

## 「平成 15 年 3 月期決算」記者会見 説明内容

以下は平成 15 年 5 月 26 日におこなった記者会見における弊社取締役 大谷昭義による発表の内容です。

### 【最初に】

決算発表に先立ちまして、一言申し上げさせていただきます。

先般公表いたしましたとおり、当社及びりそな銀行は、預金保険法に基づき、りそな銀行に対する公的資金による資本増強を申請すべく、諸手続を進めさせて頂いております。

このような状況に至り、数多くのお客さまをはじめ、国民の皆さまに対し、多大なご心配とご迷惑をおかけいたしました。

改めて、この場をお借りしまして、深くお詫びを申し上げます。

本日は、本来であれば、当社トップによる会見をさせて頂くべきところですが、後日、改めて、新経営陣による今後のグループ運営方針等について、会見をさせて頂く予定でございますので、何卒、ご了承ください。

なお、「今年度の業績予想」につきましても、現在、申請にかかわる改善計画を策定中であり、その概要が固まり次第、別途公表させていただきますので、ご了承願います。

それでは、平成 15 年 3 月期の業績について、ご説明させていただきます。

お手元にお配りしております「株式会社りそなホールディングス」の平成 14 年度「決算説明資料」をご覧ください。表紙、目次に続きまして、右上に「P. 1 - 1」とあります『平成 14 年度決算の概況』をご覧ください。

### 【当社連結決算】

まず、14 年度の当社連結決算の状況ですが、経常収益は 1 兆 2,592 億円、経常損失は 5,101 億円、当期純損失は 8,376 億円であります。

14 年度の与信関連費用につきましては、1,365 億円の一般貸倒引当金繰入

額と 4,155 億円)の不良債権処理額を加えた約 5,500 億円であります。

尚、先日の業績予想修正にて公表した通り、繰延税金資産について、厳格に将来の不確実性を排除し、一部資産を取崩した影響等は 3,007 億円の法人税等調整額にて損失を計上しております。

#### 【傘下銀行決算】

続きまして、傘下銀行の単体決算の状況であります。

5 行合算計数は、傘下 5 銀行の計数に加えて、15 年 2 月末までの旧あさひ銀行の閉鎖決算も含めて表示してあります。

5 行合算の計数については、先程ご説明した連結決算の状況とほぼ同じであります。

尚、株式関係損益は 3,121 億円の損失であります。別に、大和銀行とあさひ銀行との合併の際に、所謂「合併差益」の活用により 1,625 億円の有価証券含み損を処理しております。分割・合併に伴う処理の詳細につきましては、りそな銀行の説明資料に記載しておりますので、後程ご覧ください。

最下段に傘下銀行別の資本勘定を記載しましたが、株式の含み損を抜本的に処理した結果、株式等評価差額金は大幅に改善しました。

しかしながら、不良債権処理に加えて、繰延税金資産の資産性の見直し等による損失の拡大に伴い、各傘下銀行の自己資本は大幅な減少を余儀無くされる事となりました。

#### 【当社単体決算】

次ページの P. 1 - 2 をご覧ください。

当社の単体決算の状況をお示ししておりますが、各傘下銀行の自己資本減少に伴い、当社が保有する傘下銀行株式の評価額の見直しを実施いたしました。

この結果、関係会社株式評価損等として 1 兆 1,611 億円の特別損失を計上しております。

尚、傘下銀行別の株式評価損等の内訳につきましては、記載の通りであります。

1兆1,535億円<sup>1</sup>の当期損失を計上した結果、下の【参考】にお示した通り、当社の資本の部合計は3,483億円<sup>2</sup>となり、内訳として利益剰余金は1兆1,439億円<sup>3</sup>のマイナスとなっております。

#### 【自己資本比率の状況】

続きまして、自己資本比率の状況であります。傘下銀行の自己資本の減少に伴い、ホールディングス連結の自己資本比率は速報値で3.78%<sup>4</sup>、りそな銀行連結は速報値で2.07%<sup>5</sup>であります。

なお、預金保険法に基づく資本増強を申請する金額等について、様々な報道がございますが、申請する金額、種類等につきましては、現在詳細を詰めているところです。

次ページのP.1-3をご覧ください

#### 【金融再生法基準の開示債権】

金融再生法基準の開示債権について、傘下4銀行の合算計数をお示しています。

15年3月末の4行合算の金融再生法基準開示債権は、2兆9,063億円<sup>6</sup>となり、与信残高に対する比率も9.32%<sup>7</sup>と10%を切る水準まで圧縮しております。

破綻懸念先以下のオフバランス化対象債権については、1兆3,326億円<sup>8</sup>のオフバランス化を進めた結果、15年3月末には1兆1,417億円<sup>9</sup>となり、14年3月末との比較では大幅な圧縮となっております。

特に、「りそな銀行と埼玉りそな銀行」、「旧大和銀行と旧あさひ銀行」との2行合算では、期初計画を上回る1兆2,500億円弱のオフバランス化を実現し、公約通り、オフバランス化対象の残高を半減させ、1兆円の大台を切る9,160億円<sup>10</sup>まで圧縮しております。

尚、「りそな銀行と埼玉りそな銀行」との2行合算のオフバランス化実績、及び進捗率等につきましては、P.1-5から2ページに渡り記載しており

ますので、後程ご覧下さい。

開示債権に対する保全率等につきましては、次ページ以降に記載しております。

また、各傘下銀行毎にも説明資料をご用意しておりますので、後程ご覧ください。

決算計数等のご説明につきましては、以上でございます。

#### 【最後に】

最後に、去る5月17日(土曜日)に行いました、業績予想修正等の発表以降、今日に至るまで、りそな銀行をはじめ、傘下各銀行の店頭におきましては、目立った混乱もなく、全く通常通りの営業を続けさせて頂いております。

これも、ひとえに当グループをご信頼いただきました多くのお客さまのお陰でございます。

我々、役職員一同、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

なお、今後とも、中堅・中小企業、個人のお客さまとのお取引につきましては、一層強固なものにしていくと共に、徹底的な合理化を押し進め、出来得る限り、早期に当グループの再生を実現すべく前進してまいります。

こうしたグループの変革を通じ、我々の重要な存立基盤である「地域の皆さま」のご期待にお応えするとともに、信用と信頼の回復、企業価値の向上を目指してまいります。

どうか、今後とも「りそなグループ」に対し、一層のご支援・ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上